



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第66回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 捕手のサインを打者に伝達するような紛らわしい行為

今春の甲子園大会で、二塁走者が捕手のサインや動きを打者に知らせる「サイン盗み」をしていた疑いを指摘され、二塁走者およびベンチが球審より注意を受ける様子を見ました。

第33回でも取り上げていますが、今一度、確認しておきましょう。捕手がサインを出し終えた後、二塁走者に不自然な動きがあった場合、打者にコースや球種を伝達しているのではという疑義が生まれます。投手と打者との勝負に、打者を有利にしようと走者が介入するアンフェアな状況が想起されます。また、サイン盗みを防ぐとして、守備側もサインを複雑にしなければならなくなり、結果として試合を停滞させることにもつながります。バッテリーと打者の駆け引き、真剣勝負の場ですから、紛らわしい仕草は厳に慎まなければなりません。もちろん、二塁走者だけでなく、ランナーコーチや他の走者、ベンチも同様です。絶対に止めましょう。

ルール編 ラインアウト

多くの練習試合においては、ホームチームが塁審3名を配置して試合が進められます。こうしたことから、現在、選手のための審判講習会も開催され、「フォースアウト」「タッグアウト」「セーフ」など基本的な技量は年々アップしてきていますが、「ランダウンプレイ」の判定は判断に戸惑っているようです。「ランダウンプレイ」は「守備妨害」「走塁妨害」「ラインアウト」「タッグアウト」「同一塁(三塁)上の二走者へのタッグ」等と多様なケースが想定されるプレイです。中でも、「ラインアウト」は野手の触球を避けた場合に起こりうる一方、走者は必ずしもベースを結ぶ線上を走っているとは限らないため、改めて解説しておきます。

走者が、野手の触球を避けて、走者のベースパス(走路)から3フィート(91.4センチ)以上離れて走った場合、触球されなくても走者はアウトになると規定されています。

走路とは、塁間を結ぶ直線を中心として、左右へ各3フィート、合計6フィートの幅の地帯を指しますが、走者が例えば二塁走者でベースランニングしやすいように最初から走路外にいたときには、走者と塁を結ぶ直線を中心として左右へ各3フィートがその走者の走路となります。ただし、**走者は打球を処理している野手を妨げないために避ける場合、3フィートから外れて走ることができます。**しかし、野手が走路内で打球を処理した直後に触球プレイが生じたときには、走者がベースパス(走路)から3フィートから外れればアウトとなります。

審判を務めてくれる選手諸君は、自分が野手で走者に触球した後、次のプレイに移ることをイメージしてみてください。走者が触球を避けるため、制限なく走ることが許されてしまえば、野手は次のプレイに移ることはできません。触球を避ける走者と野手との距離はどの程度かをイメージしてみてください。

